

『英語教育』誌のQuestion Box 欄によせて (II)

小林 資 忠 (英語教育講座)

A Contribution to the Question Box in the English Teachers' Magazine (II)

Yoshitada KOBAYASHI

(平成22年6月5日受理)

はじめに

前項(『英語教育』誌のQuestion Box欄によせて、『愛媛大学教育学部紀要』第56巻平成21年10月, pp.319-330)に引き続き,本稿も筆者が関わった『英語教育』(大修館書店)誌上のQuestion Box欄での質問とそれに対する回答の一部を紙面の許す限り提供する。

筆者の回答は雑誌に発表後,加筆・訂正されている箇所があることをお断りしておきたい。

1. of whichについて

Q. G⁴の**which** [Ⅱ] [関係代名詞] ③b) の箇所に次のような記述があります。

[of ~; 所有格; 制限用法]・・・する(ところの)(物, 事)《◆先行詞は物・事》//・・・/the house a window of ~ is broken 窓が割れている家(=the house whose window is broken)《◆以上2つの言い方よりthe house with a broken windowの方がふつう》。

お示しの例文に違和感を覚えます。the house the window of ~ is broken のように, aをtheに訂正する必要があるのではないのでしょうか。

(大阪府 H. N.)

Ans. ご質問のaからtheへの変更は, of whichがすでに知られた名詞を説明する機能を持つことからすると, ごく自然なプロセスと考えられます。しかしこの用例では, aを用いた表現が間違いであるとは言えません。人によっては, aのままでも違和感もなく, その家の(いくつかの窓のうちの)ある窓を表すと認識する人もいます。

筆者が尋ねたアメリカ人は, theにすれば, 特定化された窓の意が出てくるので, aを用いた場合とtheを用いた場合とでは意味が異なってくると言いました。さらに, “The house, a [the] window of which is broken (,is my aunt’s.)” などのように, コンマを用いて挿入の形にするのがよいと付け加えました。G⁴の用例でも, a[the] windowとしておくことがよいように思えます。最後に, a+名詞+ of whichの参考例をあげておきます。

- (1) He bought the old book, a page of which was torn out. (アメリカ人インフォーマントの作成例)
- (2) A standard footer is present at the end of each page, an example of which is shown below: ... (BNC)
- (3) In an early work, The Theory of Four Movements, a lovely edition of which has recently been published(BNC)
- (4) A users' guide to the Grammatical Tagging of the BNC, a draft of which is also available. Each tag consists of three characters. (BNC)

その他のof whichの語法に関しては, すでに『英語語法大事典』(I) (pp.1189-91), 『続・英語語法大事典』(II) (pp.855-857; pp.839-840; pp.842-843), 『英語語法大事典』(III) (pp.646-648), 『続・英語語法大事典』(II) (p.491; p.493; pp.500-501) などに解説されていますので, 参考にしてください。

2. go Hollywood について

Q. 次の英文中の“go”の意味は『ジーニアス英和辞典』(第4版)の語義分類ではどこに入るのでしょうか。

Global warming has gone Hollywood, literally

and figuratively. — “Don’t count on Hollywood-style ending,” Robert J. Samuelson, *The Japan Times*, March 25, 2007, p.13.

(福島市 M. A.)

Ans. G⁴ではgo ㊦ III [到着する] の意味ブロックに「㊦ [SVC/SVM] 〈人・物が〉…(の状態) になる」とあり、ご質問の“go”の意味はこの語義に入るように思いますが、学習英英辞典のうちで、唯一、*MED* (初版, 2版) には**Hollywood** ㊦ ㊦ に成句として**go Hollywood** が記載され、“to behave as if you think you are a very important person in the film business”と説明されていますので、この表現を英和辞典に載せる場合は、**Hollywood** の成句として載せておくほうが目に付きやすく、検索もしやすいのではないかと考えます。また英和辞典では、『グランドコンサイス英和辞典』(2001) の**Hollywood**に成句として**go Hollywood**があり、「((米俗)) 気取る, すかす, 偉そうにする, 見栄を張る; ((米俗)) 派手な服を好んで着る, ハリウッドスターのようにふるまう」とあります。ただ、これら2辞典の語義は「人」が主語にくることが想定されていますが、ご質問の英文は「事」が主語にきていますので、全体の意味も異なると思われるので、インフォーマントにこの英文の意味を確かめることにしました。それで、ご質問の英文中の“**go Hollywood**”の意味について、本欄回答者の中邑光男氏にお願いして、3人のインフォーマント(アメリカ人, カナダ人, ニュージーランド人各1人)に意見を求めていただきましたので、次にその概略を紹介いたします。

アメリカ人

“go X”はXのやり方 [流儀] で何かをやるという意味で、有名な表現には“go Dutch”, “go native”, “go au naturel”, “go ape”などがある。“go Hollywood”については、ハリウッドのイメージに似たやり方で行動したり、生活したりすることを言い、派手に着飾ったり、派手に行動したり、大げさに言ったりすることを意味するかもしれない。さらに、その表現は物事を必要以上に劇化したり、言い方や行動にけばけばしさ [派手さ] を付け加えたりすることも表す。しかし、この表現のgoはどのよ

うな単語とでも共に用いられるということではなく、一般には、よく知られた用法の連語に限定されている。そして聞き手がその対象となるものについて話し手と同じ概念を共有していれば、その表現はおそらくうまく使用されるだろうが、たいていはその表現を用いないほうがより安全であると思われる。

カナダ人

“go Hollywood”という表現は、一般に、あるプロダクション、たとえば、あるテレビ番組がテレビシリーズに基づいた映画を制作したり、今それを製作中であることを意味する。それは映画を作ろうとする本格的な試みであることもあるし、Hollywoodへ行こうとするその番組の登場人物へのからかい [パロディー] であることもありうる。ご質問の英文は地球温暖化についての映画が存在するだろうことや、地球温暖化の問題がハリウッド映画のように大きくなり、また刺激的なものになったことを暗示している。地球温暖化の問題は非常に重大なことになってきたので、今それはハリウッドで制作された災害映画のようにも思える。

ニュージーランド人

ご質問の英文中の“go”の意味はturnあるいはbecomeのような意味であると思う。また“go Hollywood”の文字通りの意味では、この表現は、明らかに、教科書、テレビ討論、雑誌記事などの科学的で啓発を目的にした伝統的な媒介物から最近のAl Goreの“The Inconvenient Truth”やLeonardo DiCaprioの“The 11th Hour”のような地球温暖化についての長編映画にまで言及している。これらの映画はハリウッドの力を利用して、世界規模で地球温暖化についての認識を深めるために、大衆にうまく訴えかけている。一方、比喩的な意味では、この表現は地球温暖化問題の本質的な変化について述べている。それは現実の科学的な論争から、大いに宣伝され、広告もされた話題への変化である。そしてその表現は少し誇張されすぎた状態になり、おそらく、この問題を人に啓発するための普及促進手段として、さらには、お金のうけの手段として利用されさえしているという気がする。

以上、3人のインフォーマントの判断や筆者が尋ねた

アメリカ人の意見を総合すると、「地球温暖化 (の問題) が文字通りにも、比喩的にも、特に、見せかけ、皮肉などのマイナスイメージを含みながら、大いに話題 [有名] になってきた」くらいの意味だと思われそうですが、もしこのgo Hollywoodの語義を最初に述べましたMEDの語義と共に採用する場合は、G⁴よりも『ジーニアス英和大辞典』のHollywoodの成句として記載しておくことでよいのではと考えます。

3. have [keep] O up one's sleeve について

Q. 次の英文中の下線部はG⁴では、have [keep] O up one's sleeve となっていますが、have [keep] と同様 get も使用できると考えてよろしいでしょうか。

Still, he's got a battery of alarming facts up his sleeve. ("Donald Sutherland proves he's no fool," *The Japan Times*, Sunday, April 13, 2008, p.14)

(福島市 M. A.)

Ans. 結論から述べますと、この表現では、動詞 get も使用されており、たとえば、「I Still got a couple of tricks up my sleeve." (Looney Tunes) のような漫画映画にある文に見られました。この表現は、特に have [has] got の形でよく用いられ、Web上の頻度もhave, keep, have [has] gotの順でそれほど大きな差はないと考えられます。

G⁴のsleeve ㊦の成句にある「**have [keep] O up one's sleeve** (奥の手・妙案など) をいつでも出せるように用意してある」は以下の学習英英辞典を主に参考にしたものと思われまます。ただし、keepには「万一の場合に備えた企みを隠しておく」といったニュアンスがあるようです (『口語英語大辞典』, 朝日出版社, 1995, p.534)。

- (1) He still has a few tricks up his sleeve. (*LDOCE*⁴, *LAAD*²)
- (2) He wondered what Shearson had up his sleeve. (*Collins COBUILD*⁵)
- (3) If I know Mark he'll have one or two tricks up his sleeve. (*CALD*²)
- (4) I'm keeping this idea up my sleeve for the time being. (*CULD*)

その他、MED²にもhaveを用いた例文がありますが、OALD⁷には用例がなく、**have [keep] sth up your sleeve**をイディオムとして載せているだけです。また have [keep] を使ったイディオムを出しながら、「I've got a few ideas up my sleeve if this method doesn't work." (*LDELIC*) のように、get単独ではなく、have gotを用いた例文を出している辞書も多くあります。この事実はおそらくhave動詞の「高頻度の使用の結果、haveの意味が弱まったため、それにgotを加えて活性化したもの」(小西友七『英語のしくみがわかる基本動詞24』, p.18) あるいは、話し言葉で、have gotがhave (所有する) の意味でよく使用されていることと関連していると考えてよいでしょう。

何冊かのイディオム辞典には、have [keep] something up your sleeve の用例として、haveの意味を温存したwith句を使用したものや have [has] got を用いたものがよく見られます。

- (5) Mr. Major does not look like a prime minister with a secret agenda up his sleeve. (*Chambers English Dictionary of Idioms*, p.312)
- (6) Parham's a highly intelligent man, and I'm sure he's got something up his sleeve. (*Longman Idioms Dictionary*, p.314)
- (7) The centre-forward insisted his team will use every trick up their sleeve to counter the physical threat posed by the Irish. (*Collins COBUILD Dictionary of Idioms*, p.356)

G⁴では、このイディオムと類似した意味を表す**an ace [a card] up one's sleeve**も**ace** ㊦の成句として載せられており、have [keep] an ace [a card] up one's sleeveや with an ace [a card] up one's sleeve の型で用いられることが示されていますので、上述の成句に相互参照の (→ ace ㊦ 成句) を入れておくことと親切であったと思います。またaceやcardを用いた成句でも文脈により、haveやkeep以外の動詞が使用されることがありますので、参考のため、記しておきます。

- (8) I bet he's got an ace up his sleeve; he wouldn't let anybody beat him that easily. (*Chambers English*)

Dictionary of Idioms, p.2)

(9) I took the precaution of having what, I believe, you sporting men call a card up my sleeve. (*SOED*, s.v. card)

(10) The crooked gambler hid aces up his sleeve during the card game so that he would win. (*A Dictionary of American Idioms*, p.434)

もちろん、*NODE*などのように、up one's sleeveを成句として示し、各種の動詞を用いた例文を載せておくやり方もありますが、この表現ではhave動詞が中核的な意味を担っていると考えられますので、学習英和辞典としてはhave (got) [keep] O up one's sleeve や with O up one's sleeve のように、動詞や前置詞を具体的に記しておくことの方がよいと考えます。またupの代わりにinを使用することもあることがAdam Makkai, *A Dictionary of American Idioms* (1995³, p.434) に明示されています。

4. help (to) do, help O (to) do, について

Q. 『ジーニアス英和辞典 (第4版)』(G⁴) のhelp ㊦①に次のような英文とその訳が提示されています。

He ~ ed (to) change tires. 彼はタイヤの交換を手伝った/ She ~ ed me (to) carry the chairs out. 彼女に手伝ってもらって私はいすを運び出した。

上の英文で、toはあってもなくてもよいが、微妙な意味の差が出てくる可能性のあることが池上嘉彦『英文法を考える』(筑摩書房, 1991, pp.110-111) で指摘されています。G⁴の改訂時には「toがあれば、最初のほうだけ手伝ったことを意味する。ただし、ずっと一緒に手伝ってくれたかどうかは不明である。他方、toがないと、最初から最後まで手伝ってくれたと解釈できる」としてはどうでしょうか。

(大阪府 H. N.)

Ans. 結論から述べますと、toの有無によって、上記の英文を質問者が提案された「最初のほうだけ手伝った」とか「最初から最後まで手伝ってくれた」というような意味に限定することまではできないと思います。そのためにはそれなりの文脈が必要でしょう。周知のように、toのない形は元はアメリカ英語の特徴であったのが、お

そらく1930年代 (cf. *SOED* s.v. help) 頃には英国でも普通になり、今では、英米で口語のみならず文語でも用いられていると考えられます。ご質問のG⁴にもhelp ㊦①の「語法」(1)に「toは、リズムや文体にもよるが、Sが直接「手を貸して」を含意するときには多く省略される。したがって、He ~ ed me climb the stairs by propping me up with his shoulder. (階段を上るとき彼はずっと肩で私を支えてくれた) のような場合ではtoをつけないのがふつう」とあります。質問者が示された上記の書物はこれと同様の内容を形式と意味の関係という観点からやや詳しく書いています。つまりtoのある表現はhelpの目的語とその後の動詞のつながりがtoの介在により間接的になっており、他方、toのない表現は目的語と動詞が隔てられることなく隣り合っているが、「この〈形式〉の上での差が行為の主体の介入の程度の高さを反映している」(前掲書, p.111)と説明しています。また、少し古いですが、F. T. Wood, *Current English Usage* (Macmillan, 1962, p.107) にも次のような言及があります。

It is never wrong to insert *to*; it can be omitted only when the 'helper' does some of the work, or shares in the activity jointly with the person that is helped.

この説明により、「助ける人が助けられる人の作業の一部を分担する場合や直接に手を貸して一緒に活動をする場合にのみ、toは省略できる」ことがわかります。

D. Bolinger も論文“Concept and Percept: Two Infinitive Constructions and Their Vicissitudes” (in *World Papers in Phonetics: Festschrift for Dr Ohnishi's Kiju*, Tokyo: Phonetic Society of Japan, 1974, pp.65-91) で「toのないほうは知覚的 (perceptual) で直接的 (immediate), toのあるほうは観念的 (conceptual) で間接的 (mediate) に手伝えること」(小西友七『英語のしくみがわかる基本動詞』(研究社, 1996. P.283) を意味するとしています。

G⁴の用例She ~ ed me (to) carry the chairs out.では、toのない場合は「行為そのものの援助 (とその達成)」(小西, 前掲書, p.284) を暗示し、一緒に手を貸していすを運び出す、直接的で具体的な援助を表しており、toのある場合は「行為に至るまでの援助」(小西, 前掲書, p.284) を示唆し、いすを運び出す準備や励ま

しの言葉をかけるなどの間接的な援助を表すと考えてよいでしょう。最近では、Huddleston & Pullumが*The Cambridge Grammar of the English Language* (2002, p.1244) で次のように述べています。

With *help* some speakers restrict the bare infinitival to cases of relatively direct assistance – compare:

[i] He *helped* me (to) finish on time by doing the bibliography for me.

[ii] He *helped* me to finish on time by taking the children away for the weekend.

In [i] he actually did some of the work, whereas in [ii] he enabled me to do it myself.

もっとも、直接的、間接的といっても明確な線を引くことが難しい場合もあることはHuddleston & Pullumも次のように認めているようです。

But it is questionable how widely shared such judgements are: many speakers would allow a bare infinitival in [ii] no less than [i], and there is certainly no clear-cut distinction between direct and indirect help. *Ibid.*, p.1244.

なお、この問題に関しては、P. A. Erades, *Points of Modern English Syntax: Contributions to English Studies* Edited by N. J. Robat (Amsterdam: Swets & Zeitlinger B. V., 1975, pp.31-32), 『英語語法大事典・第3集』(1981, pp.355-357), 『英語語法大事典・第4集』(1995, pp.649-651)などを参照されるとよいでしょう。

5. pave the way for …について

Q. Drastic changes appear to be taking place in North Korea as its Korean Workers' Party (KWP) further strengthens its grip and its strongman Kim John Il tackles three major tasks: to pave the way for announcing his successor, (“Change sweeping North Korea,” *The Japan Times*, April 17, 2008, p.18)

上の英文の下線部では前置詞forが用いられていますが、『ジーニアス英和辞典 第4版』(G⁴)のpave 動 ㊦ ①の用例では「～ the way to a new market 新市場への道を開拓する」が載っており、前置詞forを使用した用例ではありませんが、何か理由があるのでしょうか。

(福島市 M. A.)

Ans. ご質問の英文は「朝鮮労働党がさらに支配力を強め、独裁者キム・ジョンイル(金正日)が3つの主要な職務、つまり後継者を公表することへの道を整えること、・・・に取り組んでいる時に、北朝鮮では急激な変化が起こりつつあるように見える。」という内容だと思えますが、確かに、G⁴ではpave 動 ㊦ ①に前置詞forではなく、toを使用した用例のみ見られます。頻度の点から言えば、forを用いた例を優先して、～ the way for [(時に) to] a new marketとすべきであったでしょう。もっとも、“pave the way for ...”の表現はG⁴にもway¹ 名 ㊦ の成句に採用されているので、おそらく重複を避けるためだったのかもしれませんが。その場合、相互参照のため(→way¹ 名 ㊦ 成句 **pay the way for O**)を用例の後にしておく親切だったと思います。G⁴では成句を扱う場所として、その成句に含まれる名詞のところで扱うことを編集上の原則としていますので、G³とは異なった場所に成句は配置されています。G³ではpave 動 ㊦ の成句として「**pave the way for [to] O**・・・を容易にする、・・・への道を整える」と記されていますが、G⁴では頻度を考慮に入れてtoを削除したのではないのでしょうか。

実際に、学習英英辞典のLAAD², MED², Collins COBUILD⁵, LDOCE⁴, OALD⁷, CALD³, Encarta ConciseED (Student Edition)などはすべてforを用いた例のみ載せています。

- (1) Galileo's achievements paved the way for Newton's scientific discoveries. (LAAD²)
- (2) The agreement will pave the way for restoring economic ties. (MED²)
- (3) This decision paved the way for changes in employment rights for women. (OALD⁷)

またLDEL³はpave the way for/to paveの成句としても、用例は“paving the way for lasting peace”のようにforを使用したものを挙げています。

CALD³, CIDEのpaveの成句 **pave the way**ではforを使用した例と共に“If something paves the way for/to something else, it makes the other thing possible.”の説明があります。さらに数冊のイディオム辞典では、for及び数は少ないが、toを用いた例をそれぞれ載せているものもあります。参考のため、toを使用した例のみ

次に記します。

(4) She got a job as an assistant stage manager at the Cambridge Arts Festival Theatre, thinking that it might pave the way to a career as a playwright. (Collins COBUILD Dictionary of Idioms, p.415)

(5) A good education paves the way to success. (A Dictionary of American Idioms³, p.308)

筆者の尋ねた米人インフォーマントは、(4)、(5)の用例について、前置詞toの代わりにforを用いた場合、準備の気持ち加わると思うが、forを使用したそれぞれの文に対して違和感はないと述べました。

Longman Dictionary of English Idioms [LDEI] (1979, p.361) では pave the way の意味を “to make everything ready (for something) ; lead (to something)” とし、forを使用した2例を挙げながら、通例the wayの後にはforが続くと注記しています。

以上の結果から、この表現では通例forを用いるが、時にtoも用いられるといった使用状況がうかがえます。「forは単に方向を示すだけだが、toは通例方向と到着地点を含意する」(小西友七『英語の前置詞』, 1976, p.330) という前置詞の基本的な意味の違いをこの表現にも感じることができます。またtoよりforの使用頻度が高いということは、この表現が到着地点ではなく、LDEIが示唆するように、「・・・に向かって [のために] (準備された)」といったような方向・目標・利益などを含意していると受け取られることが多いためではないかと考えます。

6. Bigfoot, sasquatch; abominable snowman, yeti について

Q. G⁴のBigfootを見ますと、ビッグフット(→Sasquatch)としか載っていませんので他の英和辞書で調べますと「北米北西部山中に住むという猿人」とあります。うかがいたいのは日本語の雪男に相当する英語は何であるかということです。『NHKビジネス英会話』2008年1月号にwriter's workshopというのがあり、担当者の佐藤昭弘氏によると以下のように雪男が解説されています。

「雪男の英語名は地域により違います。abominable snowmanやYetiとした読者がいましたが、これはヒマラヤに住む雪男です。雪男はアメリカでは普通bigfoot,

カナダではbigfootまたはsasquatchと呼ばれているようです。」

以上の解説でbigfootを理解すればよろしいでしょうか。

(広島市 T. U.)

Ans. 回答をする前にG⁴の記述について述べておきます。最新版G⁴のBigfootの説明には「ビッグフット《米国北西部に住むといわれる伝説の大男》」とあり、sasquatchへの→による言及は削除されています。もちろんsasquatchは見出し語になっていませんが、見出し語に採用することも検討してよいと思います。一方、abominable snowmanは**abominable** ㊦の項目の最後に分離複合語として載っており、「～ snowman [or A ~ S-] 雪男 (yeti)」としています。またyetiでは「【チベット】㊧ [or Y ~] ㊨ 雪男 (Abominable Snowman)」となっています。

結論から述べますと、質問者が紹介された解説記事による理解でよろしいのではないかと思いますし、G⁴の改訂版では、Bigfootについては「雪男とされることもある」と追加説明しておくことで、Bigfootが「雪男」を指すことがあることははっきりするのではと考えます。WebにありますBIGLOBE百科事典にも「雪男(ゆきおとこ)は降雪の多い地方にいると言われている獣人(未確認動物)の総称。ヒマラヤのイエティ、ロッキー山脈のビッグフットなどを指すことが多い。日本国内では中国山地のヒバゴンも雪男とされる。」とあり、「それぞれの雪男の共通点として、人里離れた山奥に住む、全身毛むくじゃら、直立二足歩行するという特徴が挙げられる。体色については、白、茶色、灰色など諸説あり、共通認識とはなっていない。」と説明が続きます。日本では地理的に近いヒマラヤの方に注意が向いているためか、雪男というとabominable snowmanあるいはyetiの方が頭に浮かびやすいのかもしれませんが。『広辞苑』(第6版, 2008)の見出し語 **ゆき・おとこ【雪男】**には「ヒマラヤ山中に住むと伝えられる正体不明の動物。人に似て直立し、全身が毛に覆われているという。」の解説があります。『研究社新和英大辞典』(第5版, 2003)の見出し語 **ゆき・おとこ【雪男】**には「〔ヒマラヤの〕a [an abominable] snowman; a yeti.」とあります。ただ、

後者の辞典にはビッグフットの見出し語もあり、「〔北米の雪男〕Bigfoot」と記されています。

学習英英辞典のMED²の見出し語 **the Abominable Snowman**とLDOCE⁴の見出し語 **abominable snowman**にはyetiと同じであるとの記述があり、**yeti**に解説がありますが、見出し語BigfootとsasquatchはMED²、LDOCE⁴には載っていません。一方、LAAD²、LDELIC³、OALD⁷、CALD³、NODE、CIDEなどにはabominable snowman, yeti; Bigfoot, sasquatchの4つの見出し語があり、前者の見出し語2つについては「ヒマラヤ山中に住むと言われる人〔クマ〕に似た生き物」と記されており、後者の見出し語2つについては「アメリカ北西部とカナダ西部に住むと信じられている人〔猿〕に似た生き物」と説明されています。

基本的には、参照したすべての辞典で共通した語義解説が見られますが、多少違った情報が含まれている場合もありますので、それらについて補足しておきます。

NODEのBigfootの語義説明ではBigfootが「yetiに似ている猿のような生き物」とあり、他の辞典に見られない説明が付加されています。このことと関連しますので、参考として、OEDSの見出し語sasquatchにありますThe New Yorker (1974)からの用例を次に紹介しておきます。

“The Northwest’s legendary Sasquatch, a huge, humanoid seven-or-so-foot creature akin to the Abominable Snowman of Tibet” (下線部は筆者)

CED⁸のabominable snowmanの語義説明には次のように、語源情報が含まれています。

a large legendary manlike or apelike creature, alleged to inhabit the Himalayan Mountains. Also called : **yeti** [a translation of Tibetan *metohkangmi*, from *metoh* foul + *kangmi* snowman]

CED⁸のsasquatchにはカナダ西部の州British Columbiaの民間伝承への言及があり、さらにBritish Columbiaや米国北西部に住んでいたインディアン諸語を話すセイリッシュ族 (Salish) の言葉が語源になっていることが明示されています。

英英大辞典RHUD²のBig Footには「米国・カナダ太平洋岸北西部」という場所の情報やfootprintsの大きさからBig Footと名付けられたことが記されています。

ちなみに、『朝日新聞』(be on Sunday, 日曜ナントカ学, 2008年11月30日)にも、主にヒマラヤを中心にした雪男調査の努力の歴史がまとめられ、中国の湖北省神農架の原生林をすみかとする「野人」も紹介されています。また「ヒマラヤだけでなく、大型類人猿を思わせる未確認生物が、世界の各地から報告されている」ことや「これらの謎の動物を総称して、「雪男」と呼ぶこともある」とも述べられています。鮮明な写真や頭骨の証拠がないので、足跡があっても謎の動物というしかないと結論付けられています。

7. be hanged と be hungの選択について

Q. 『ジーニアス英和辞典 第4版』(G⁴)のsheepの語義①に次のことわざが紹介されています。

One may [might] as well be hanged for a ~ as (for) a lamb. ((ことわざ)) ((略式)) どうせ死刑になるなら子羊を盗むより親羊を盗んだ方がよい; 「毒を食らわば皿まで」。

英語のことわざとしては、hangedではなくてhung だと思いますが、いかがでしょうか。

(大阪府 H. N.)

Ans. このことわざに関しては、戸田 豊氏が「かつて英国では、どんな窃盗もその罰は死刑であった。羊泥棒もまたしかり。盗んだ羊の大小にかかわらず絞首刑であった。そこで、大悪を唆(そそのか)すような、この諺が生まれた。」(『現代英語ことわざ辞典』, リーベル出版, 2003, p.793)とその成立経緯について述べておられます。このことわざのhangedにつきましては、古くは、例えば、Margaret Nicholson, *A Dictionary of American-English Usage* (1957) の見出し語hangに“Past & p.p. *hanged* of the capital punishment & in the imprecation; otherwise *hung*.” (p.229)とあり、またhungに“P.p. of HANG, except when used for capital punishment or suicide” (p.244)とありますので、「㊦…を絞首刑にする/㊦絞首刑になる; 首をつって死ぬ」の語義ではbe hangedが用いられるのが原則であったことが分かります。

RHUD² (1993) のhangのUSAGE (p.868)には、次の解説があります。

“The historically older form HANGED is now used exclusively in the sense of causing or putting to death: *He was sentenced to be hanged by the neck until dead.* In the sense of legal execution, HUNG is also quite common and is standard in all types of speech and writing except in legal documents. When legal execution is not meant, HUNG has become the more frequent form: *The prisoner hung himself in his cell.*”

またThe Bank of English を利用して編集された Bernd Kortmann and Elizabeth Closs Traugott, *A Valency Dictionary of English* (2004, p.372) でも, **hang**の “be killed by hanging” の語義では be hanged が用いられるが, 時にはまたhungも用いられると説明されています。Collins COBUILD Dictionary of Idioms (1997, p.341) でも同様の解説がなされています。

このこともあってか, このイディオムに関しては, Longman Idioms Dictionary (1998) (s.v.**sheep**), Cambridge International Dictionary of Idioms (1998) (s.v.**sheep**), CIDE (1995) (s.v.**hang**) などのように be hangedとbe hungの両方が併記されている辞典もあります。

一方, Rodney Huddleston and Geoffrey K. Pullum, *The Cambridge Grammar of the English Language* (2006, p.1604) では, 次のようにhungを用いると, 語法の手引書などでは非難されることがありうることを示唆されています。

“**Hang** tends to be regular in the execution/suicide sense; *hung* is certainly found in this sense (e.g. *hung in effigy*), but is condemned in some usage manuals.”

また積極的にbe hungのみをこのイディオムの中で用いている英英辞典やイディオム辞典には, 数は少ないかもしれませんが, CALD³ (2008), Chambers English Dictionary of Idioms (1996), などがありますので, 次に記しておきます。

“**You might as well be hung for a sheep as for a lamb.** UK SAYING said to mean that because the punishment for a bad action and an even worse one will be the same, you have no reason not to do the worse one” (CALD³, p.654)

もっとも, CALD³の「絞首刑にする」の語義3 [I or T]

では, 過去形及び過去分詞形としてhangedとhungの両方が示されています。

“**may as well be hung for a sheep as a lamb**

If someone says that they **may as well be hung for a sheep as a lamb**, they mean that if you are going to do something wrong, you might as well do something really bad which will benefit you even more. (Stealing a lamb used to be punishable by death, so it was worth stealing something bigger, because the punishment could not be any worse.)” (Chambers English Dictionary of Idioms, p.303)

さらに, 文脈によりformalとless formalによって使い分けられる可能性がMWCD¹⁰ (1993) の¹**hang**の **usage**に次のように説明されています。

“*Hanged* is most appropriate for official executions ... but *hung* is also used. ... *Hung* is more appropriate for less formal hangings.”

またOxford University Google SearchのWebでは**hang**の他の語義を含めると, be hungの方が be hangedより約2.4倍ほど多く用いられているようです。実際に, 筆者が尋ねたアメリカ人はこのことわざを自分は be hung を用いて表現していると述べました。

以上を念頭に置き, 英語のことわざとしてはhangedのままよいと考えますが, hungが使用されることもあることを語法で注記しておくともよいと思います。

8. tried and trueについて

Q. If you are expected to work like a dog, be glad you aren't also expected to learn new tricks, too. This is a week in which you will succeed best by sticking to tried and true routines and not making changes. [*The Daily Yomiuri*, Oct. 4, 2008] (下線は質問者)

上記英文の下線部のtried and trueとは一体どのような意味なのでしょう。G⁴には, tried and trustedは載っていますが, このtried and trueは載っていません。改訂版ではこの表現を載せてみてはどうかと思いますが, どうでしょうか。

(大阪府 H. N.)

Ans. 上の一節は, 星占いによる1週間の予想を述べた

内容ですが、G⁴には**tried** ㊦の語義「試験 [経験] 済みの；信頼できる」の後に、用例として、「a ~ and tested [trusted] method 十分に確立された方法」が記載されています。ご指摘のtried and trueは（（主に米））で使用され、tried and tested [trusted] と同じ意味のイディオムと考えられます。G⁴にも当然、追加して載せておきたい表現です。学習英英辞典OALD⁷、LDOCE⁴、LDELIC³、Collins COBUILD⁵、LAAD² やイディオム辞典 Cambridge International Dictionary of Idioms (1998) 、The Oxford Dictionary of Idioms (2000) 、McGraw-Hills Dictionary of American Idioms and Phrasal Verbs (2005) などにも出ていますので、参考にしてください。用例を少し挙げておきます。

- (1) He's a tried and true friend. (LDELIC³) (下線は筆者、以下同じ)
- (2) Most people would prefer to stick to tried and true methods of birth control. (Cambridge International Dictionary of Idioms, p.403)
- (3) The method I use to cure the hiccups is tried and true. (McGraw-Hills Dictionary of American Idioms and Phrasal Verbs, p.716)

なお、このCambridgeイディオム辞典に載せられた**tried and tested/ trusted**には（(英)）、（(米)）、（(豪)）、**tried and true**には（(米)）のラベルが付いています。

また、NTC's American Idioms Dictionary² (1994) にはハイフン付きの用例も見られます。

- (4) I have a tried-and-true remedy for poison ivy. (p.374)
- (5) All of her investment ideas are tried-and-true and you ought to be able to make money if you follow them. (p.374)

このtried and testedについて、Huddleston & PullumはThe Cambridge Grammar of the English Language (p.1288) で、語彙順を変えてtested and triedとすることは不可能ではないが、予期されている語彙順からかなり逸脱 (a quite sharp departure) してしまうと述べ、さらに、このandで結ばれた2つの語彙は類義語 (near-synonyms) であることが多いとも述べています。イディオムなので当然かもしれませんが、興味深い指摘のように思われます。この表現のtrueの意味は「間違いのな

い、裏切らない、忠実な」くらいの意味だと思われませんが、『英語基本形容詞・副詞辞典』（研究社、1989、p.1915）には、「trueを強調してtried and trueも成句的に用いられる」との説明があります。

9. set teeth on edgeについて

Q. Prime Minister Gordon Brown said: "What I want to see is ..." His advice was wise but his tone set teeth on edge. [Richard Dowden, "If we are to help Africa, we must first understand it," *The Japan Times*, Jan. 17, 2008, p.16] (下線は質問者)

上記下線部についてお尋ねいたします。下線部が「〈人〉に歯の浮くような感じを与える；〈人〉をいらだたせる」の意味だとすると、G⁴や他の辞書ではset [put] one's [the] teeth on edgeとなっており、teethの前にone'sまたはtheが入っていますが、どうなのでしょう。G⁴によると、聖書から取られたと書いてありますが、具体的にはどこから引用されたか、ご教示いただければ幸いです。

(福島市 M. A.)

Ans. G³やG⁴では、**tooth**の成句にこの表現が記載されており、**set [put] O's teeth on edge**【聖】となっています。ご質問のset [put] one's teeth on edgeはRHUD²、Web³などに載っています。周知のように、O's teethはsomeone's teethのことでNODE、CED⁸、COD¹¹などに、a person's teethはSOD⁶などに見られます。またCollins COBUILD⁵、MED²などはyour teeth、LDOCE⁵、LAAD²、OALD⁷、CALD³などはsb's teethとなっています。

『研究社一ロングマンイディオム英和辞典』（p.507）はset someone's teeth [the teeth] on edge; put someone's teeth on edgeを載せています。この辞典では、set the teeth of someone on edgeとは言わないとしています。teethの前には通例所有格の代名詞の使用が多いですが、theも用いられますし、代名詞の代わりに、名詞が所有格として使用される場合もあります。

- (1) There is a long roof above the old body of the church and this roof has been re-tiled fairly recently in hard, livid-red shiny tiles which set the teeth

on edge. (*Collins COBUILD Dictionary of Idioms*, 1997, p.385) (下線は筆者, 以下同じ)

- (2) Tom's teeth were set on edge by the incessant screaming of the children. (*McGraw-Hill's Dictionary of American Idioms and Phrasal Verbs*, 2004, p.597)

またご質問の文に見られるように, 所有格によって, 人を指定して明示的に述べることを意図しない文脈では, 頻度は低くなりますが, teethの前に何も用いない場合もあります。

- (3) For the most part, however, they have set teeth on edge in a large portion of the Hollywood animation community and (BNC)

次の例 (4) ではteethとother teethが対照的に用いられています。

- (4) Some “traditional-minded” authorities have set teeth on edge among AIDS activists and civil libertarians with... At the same time, some “exceptionalist” activist groups have set other teeth on edge by seeming to regard (BNC)

最後に, この表現はご指摘のように聖書 (Jeremiah (エレミア書), 31. 29) が元になっています。次に, *The Holy Bible* (American Bible Society, 1952, p.696) からその箇所を引用しておきます。

²⁹In those days they shall no longer say: ‘The fathers have eaten sour grapes, and the children’s teeth are set on edge.’

³⁰But every one shall die for his own sin; each man who eats sour grapes, his teeth shall be set on edge.

この表現は「酸味やきしる音で歯の浮くような感じを与える; 人の神経にさわる, 人に嫌悪感を与える」(『ブルーワー 英語故事成語大辞典』, 大修館書店, 1994, p.592) を意味しますが, *The Kenkyusha Dictionary of English Quotations* (1968, p.188) では, この表現について「すべての人は自分の犯した罪の報いを受けなければならない」ことを表しているとしています。

10. 否定文中のtooについて

Q. Thanks. Yes, my essays sound like “complaints” because I focus on ongoing issues that need redress.

That doesn’t mean I don’t see the good news too.
Here are 700 words to prove that: ... [Debito Arudou, “Good news from grass roots,” *The Japan Times*, June 4, 2008, p.16]

上記英文中の下線部の最後のtooについてお尋ねします。『ジーニアス英和辞典 第4版』(G⁴)の見出し語too②の【語法】で「(2) 否定文ではeitherを用いるが, 次の場合はtooを用いる: a) tooが否定後より前に置かれる場合:・・・b) notを含んでいても内容的には勧誘を表す疑問文: *Won’t you come, ~? 君も来ないかい/...* (3) Me too. はMe either. の代わりに使われることがある: “I don’t like *natto*.” “Me ~.” 「納豆は嫌いだ」 「私も」《◆文法的には “Me either.” が正しい》とあります。上記英文中のtooは (3) の類なのでしょうか。それとも下線部は肯定の内容になるのでtooになっているのでしょうか。

(福島市 M. A.)

Ans. 結論から述べますと, ご指摘のように, 肯定の内容になるのでtooが用いられていると考えてよいでしょう。下線部は「私も良いニュースを見ているのですよ, 見ていないことはありませんよ」という意味で, 文全体で二重否定となり, 肯定の意味を表していると考えられます。否定文中のtooやalsoに関しては, 51年前に出版されたToichi Watanabe, “‘Also’ or ‘Too’ in a Negative Sentence” in *Studies in English Grammar and Linguistics: A Miscellany in Honour of TAKANOBU OTSUKA* (Tokyo: Kenkyusha, 1958, pp.171-174) の英文論考があります。その後, この論考は用例も入れ替えられ, また日本語に書き換えられて, 『英語教育』(1960, 9月号, pp.33-35) に載せられました。その中で, 否定文中ではalso, tooではなく, eitherを用いるとされるが, 次の場合は否定文でもalso, tooが用いられるとして, (1) 形式上は否定文であるが, 実質的には肯定文である場合, (2) also, tooが否定辞より前に位置する場合, (3) 肯定的な前提があって, それに続く否定文の中にある場合, (4) 部分否定的な場合, (5) 誤用的な場合の5つに分けて説明がなされています。またこの件に言及した説明が, 同じ著者による書物, 渡辺登士編著『英語語法活用大辞典』(大修館, 1987, pp.27-28) にもあ

りますのでご覧ください。さらに興味のある方は『英語語法大事典Ⅰ』にある「否定文におけるtoo」(pp.432-433); 「否定文にtooまたはalso」(pp.1309-1310) や『英語語法大事典Ⅲ』にある「否定語とalso」(pp.696-697) を参照されるとよいでしょう。

11. wash one's hands について

Q. 『ジーニアス英和辞典 第4版』(G⁴) のhand ㊦の成句に次の表現があります。

wash one's hands (1) トイレに行く。(2) [人と]手を切る; [仕事などから]手を引く [of] 《◆「足を洗う」に近いが、対象は悪事に限らない》。

(2) の意味は聖書に由来する表現です。改訂版では、そのことを示す聖書のラベルを表示してはどうでしょうか。

(大阪府 H. N.)

Ans. この表現の (1) の意味は *Shorter Oxford English Dictionary* (2007, Sixth edition) の **wash** ㊦の成句で、婉曲語法 (euphemism) として “go to the lavatory” が出ており、(2) の意味は **wash one's hands of** (orig. with allusion to *Matthew* 27:24) として “renounce responsibility for; refuse to have any further dealings with” と説明されています。 *The Penguin Dictionary of English Idioms* (1986, p.95) では “The allusion is to Pontius Pilate who washed his hands in a bowl of water in order to show that they were innocent of the blood of Jesus Christ.” の記述が見られます。

Brewer's Dictionary of Phrase and Fable (Century Edition, 1977, p.506) からその箇所を引用しておきます。

When Pilate saw that he could prevail nothing, but that rather a tumult was made, he took water, and washed his hands before the multitude, saying, I am innocent of the blood of this just person: see ye to it. (下線は筆者、以下同じ)

イエスの裁判の時に、総督ポンティウス・ピラト (Pilate) が手を洗って、自分には責任がないことを暗に示したことに由来しています。また *The Holy Bible* (American Bible Society, 1952, p.30) では、より分か

りやすく、次のようになっています。

So when Pilate saw that he was gaining nothing, but rather that a riot was beginning, he took water and washed his hands before the crowd, saying, “I am innocent of this man's blood: see to it yourselves.” (ピラトは手のつけようがなく、かえって暴動になりそうなのを見て、水を取り、群衆の前で手を洗って言った、「この人の血について、わたしには責任がない、おまえたちが自分で始末するがよい」。) (『新約聖書』, 日本聖書協会, 1956, p.89)

この表現は現在でも使用されていますので, *McGraw-Hill's Dictionary of American Idioms and Phrasal Verbs* (2005, p.740) から用例を挙げておきます。

- (1) I washed my hands of Tom. I wanted no more to do with him.
- (2) That car was a real headache. I washed my hands of it long ago.

G⁴の改訂版には【聖書】のラベルを入れることを検討したいと思います。

12. wear one's heart on one's sleeve について

Q. 多田幸蔵著『解釈のきめ手 英文研究法』(洛陽社, 増補改訂版, 2007, p.97) に次の英文があります。

Under no circumstances should one wear one's heart on one's sleeve. (どのような場合でも決して慎みを失ってはならない。) (下線は質問者)

『ジーニアス英和辞典 第4版』(G⁴) には, wear one's heart on one's sleeve が載っていないように思います。この表現は今では使われていないので, 辞書に載せられていないのでしょうか。

(大阪府 H. N.)

Ans. この表現は G³や G⁴に **heart** ㊦の成句として次のように記載されています。

wear one's heart on [upon] **one's sleeve** 思うことを隠さずに [あけすけに] 言う; <人が> 率直に行動する; たままち恋に落ちる。この成句は William Shakespeare, *Othello* (1604), I. i. 61-65 にある Iago の言葉に見られるものです。G. Blakemore Evans (ed.), *The Riverside Shakespeare* (Boston: Houghton Mifflin

Company, 1974, p.1204) には次のように記されています。

For when my outward action doth demonstrate
The native act and figure of my heart
In complement extern, 'tis not long after
But I will wear my heart upon my sleeve.

For daws to peck at: I am not what I am. (下線は筆者, 以下同じ)

(何しろ, おれの外面の行動が内なる心のあるがままの動きや姿を外から補ってあらわに見せるようなことがあれば, たちまち心の臓を袖につけて小ガラス [コクマルガラス] につつかせるようなことになりかねない。実のおれは目に見えるおれとは違う。) (外山滋比古 他編『英語名句事典』, pp.176-177)

この成句は自分が愛した女性から贈られた品 [リボンやハンカチなど] を自分の袖に結んで秘めた胸の思いをあらわにした昔の習慣に由来すると言われています (Longman Idioms Dictionary, 1998, pp.165 / Brewer's Dictionary of Phrase and Fable, Century Edition, 1977, p.519)。

さらに, この表現は最近の学習英英辞典やイディオム辞典にも出ていますので, 今でも使用されていると考えてよいでしょう。LDOCE⁵, LAAD², LDEL³ではwearの成句として ((略式)) のラベルを付けています。またwearのほかにhave (MED², s.v. heart) やpin (A Dictionary of American Idioms (1995³, p.443) by Adam Makkai) も用いられることがありますし, heartの代わりにfeelingsの使用もあるようです (飛田茂雄『探検する英和辞典』, 草思社, 1994, p.321)。文脈によっては, 変異形もみられますが, いくつかの例を挙げておきます。

- (1) Everybody who knows me knows that I play with my heart on my sleeve, and I'm the same off the pitch. (Collins COBUILD Dictionary of Idioms, p.200)
- (2) You should have thought the heart on the sleeve atmosphere would have suited his nature. (Ibid., p.200)
- (3) I am not a whiner; I refuse to carry my heart on my sleeve. (The Kenkyusha Dictionary of English

Quotations, p.593)

- (4) Occasionally, as in the case of Renoir, the secret is an open one, and the heart worn on the sleeve wins the same kind of general acceptance that is given to a happy child. (Ibid., p.593)
- (5) They do not wear their heart in their sleeve for daws to peck at. They have that phlegm or staidness, which it is a compliment to disturb. (Ibid., 592)

13. come to passについて

Q. 『ジーニアス英和辞典 第4版』(G⁴) のpass 動 成句に次の表現があります。

come to pass ((古)) 〈事〉起こる (happen) .

これに関連して, 次の英文を目にしました。

All these things, and a thousand like them, came to pass in and close upon the dear old year one thousand seven hundred and seventy-five. — Charles J. H. Dickens, *A Tale of Two Cities* (Penguin Classics, p.7) (下線は質問者)

正しくは下線部のようにcome to pass inと言うのではないのでしょうか。G⁴の成句ではinが脱落しているということはありませんか。

(大阪府 H. N.)

Ans. まず, この成句の位置についてですが, G³や『英語基本動詞辞典』(p.1065) と同じように, この表現のpassは名詞なので, G⁴のpass 名 の後に成句として **bring O to pass** と共に移動するのが良いと思います。ご質問の文を単純化すると次のようになります。

These things came to pass in and close upon the year 1775. (こうしたことが1775年にまたほぼそのころに起こった) (下線は筆者)

この文のcome to pass は成句としてhappenの意となり, 前置詞inは後のthe yearと繋がり, in and close upon the year 1775と考えるのがよいでしょう。周知のように, 前置詞inはatと違って, 「時の一点としてよりもむしろ幅のある期間として」(小西友七『英語の前置詞』, p.227) とらえられ, また「close/near on [upon] はclose to/ near (to) と同じく, 時刻などに関して

‘almost’の意(前掲書, p.382)で用いられます。‘almost’は「もう少しのところである状態に達していないこと」(G⁴, s.v. **almost** 類語比較)を表しています。さらに、G⁴の**close**¹副の後にある成句**close on** [upon]も参照して下さい。

14. preferableについて

Q. 『ジーニアス英和辞典 第4版』(G⁴)の**preferable**の欄に次のような英文とその訳が提示されています。

His idea is far [infinitely, greatly] ~ to mine. 彼の考えは私のよりずっと望ましい。

「ずっと望ましい」と言うときに、veryやmuchは使えないのでしょうか。もし使えるようでしたら、改訂版では加筆してみてもどうでしょうか。

(大阪府 H. N.)

Ans. *Oxford Collocations Dictionary for Students of English* (2002, p.589)には、preferableの修飾語として副詞far, greatly, infinitely, vastlyが示され、後ろに来る前置詞もtoが勧められています。ご質問の回答のために、本欄回答者の中邑光男氏にお願いして、G⁴を参考にした次の(1), (2), (3)の文について、文法的に容認されるかどうか3人のインフォーマント(アメリカ人2人, カナダ人1人)に意見を求めていただきました。

- (1) His idea is much preferable to mine.
- (2) Now it is most preferable to make a phone call.
- (3) Now it is very preferable to make a phone call.

アメリカ人のAさん(50代)は(1), (2), (3)の文はすべて不自然に聞こえたとし、特に、(3)に関して、veryとpreferableの連語はよく耳にするが、限定的にa very preferable resultなどの表現でよく使用されると回答されました。これによると、veryに修飾される場合は比較の気持ちが薄れるのかもしれませんが。

アメリカ人のBさん(30代)は(1)に関しては、unacceptableで、muchよりmoreが好まれるとし、(2)に関しては、acceptableであるが、現在使われている語法ではなく、100年ぐらい前のSherlock Holmesの物語に出てくるような古い英語表現であると説明されました。(3)の場合はunacceptableであり、文法的には可

能であるとしても、社会的に受け入れられないと言われ、preferableの「堅苦しさ」とveryのusage levelとが調和しないためではないかと述べられました。

カナダ人のCさん(40代)は(1)を訂正し、“His idea is much more preferable to mine.”ならOKだとされました。(2)と(3)についても、それぞれ“Now is the most preferable time to make a phone call.”と“Now is a very preferable time to make a phone call.”のように訂正されました。

以上、3人のインフォーマントの意見によると、(1), (2), (3)の文はそれぞれ違和感のある文であり、(1)のmuch preferableは不自然に聞こえる人や受け入れられない人もいたので避けたほうがよいでしょうし、(2)と(3)については限定用法で使用する事が勧められるようです。もっとも、筆者が尋ねたアメリカ人(50代)のように、“more preferable to”よりは“much preferable to”の方が少しは受け入れやすいという人もいます。容認度の判断に個人差が多少見られる表現のように思えます。

このような状況もあって、G⁴ではG³にあった修飾語muchを削除したのでしょう。

周知のように、学校文法ではpreferableはすでに比較の意味を含み、more preferableとすると二重比較級(double comparative)となり、冗語法(pleonasm)を形成するので、G⁴も含めて、^xmore ~とはしないことが知られていますが、この件に関して、少し検討してみましょう。

古くは、Frederic T. Wood, *Current English Usage* (1965, p.182)に記述があり、“One thing is preferable to another. *More preferable and most preferable* are solecisms.”と説明されています。*Collins COBUILD English Usage* (2006², p.370)でもpreferableの後ろの前置詞はtoを使用し、“^xOne thing is ‘more preferable than’ another.”とは言わないようにと注記されています。最近の主な学習英英辞典ではpreferableの後ろにthanを使っている用例はなく、前置詞はtoが使用されています。

(4) Being taught in a small group is far preferable to being in a large, noisy classroom. (*LDOCE*⁵) (下線は筆者、以下同じ)

(5) A dark suit is preferable to a light one for evening

wear. (*LDEL*³)

(6) He finds country life infinitely preferable to living in the city. (*OALD*⁷)

(7) Surely a diplomatic solution preferable to war. (*CALD*³)

(8) Full-time work is definitely preferable to part-time work. (*LAAD*³)

一般的には、英語の学習者としては、(4)～(8)の用例に従って英語を書いたり、話したりしておくことでよいように思えます。

学習英英辞典のうち、唯一、preferableがmoreで修飾された用例が*MED*²に一例ありますので次に挙げておきます。

(9) Wouldn't it be infinitely more preferable to educate prisoners so that they can find jobs when they get out? (*MED*²)

この(9)のmore preferableに関して、インフォーマントの反応を知りたいと思い、再度、中邑光男氏にお願いして、上述の3人のインフォーマントに意見を聞いていただきました。

アメリカ人のAさん(50代)はinfinitelyは連語としてmoreと共に起ることが多いため(9)の文は自然な文であると言われ、またmore preferableという表現が可能かどうかについては、たとえば、A is preferable and B is also preferable, but B is more preferable.などの文脈であれば、可能であるとされました。

アメリカ人のBさん(30代)は、(9)の場合、moreをpreferableと共に使用することは文法的にも社会的にも可能であるし、moreはその好まれる選択をより効果的に強調するために加えられていると述べました。また、moreのあるなしの違いは次の2つの文の違いにも似ているとのことでした。

(10) I think it's better to educate prisoners.

(11) I think it's much much better to educate prisoners.

さらに、more preferableの表現は、たいてい、学究的な著作や文学作品などに見られることが多く、日常の会話ではあまり見られないと説明されました。

カナダ人のCさん(40代)は、(9)の場合、“more preferable ... than what is being done now”が暗示され

ており、その文は比較級になり、moreが必要とされると判定されました。

ちなみに、(A) Going swimming is more preferable than playing football. と (B) Going swimming is preferable to playing football. の2文について、カナダ人のCさんは、事実ではなく好みの問題を述べているので、(A)に対しても、特に問題は感じられないと判断されました。これに関しては、アメリカ人のBさんも同じ意見であり、(A)と(B)の違いについては、(A)の方が好みの程度を強調する度合いがより大きい点に違いがあるだけであると述べられました。preferableが比較の意味を含むという語感が希薄になってきていて、人によって、容認度に差が見られるのかもしれませんが。(A)と(B)の用例はJ. B. Heaton and N. D. Turton, *Longman Dictionary of Common Errors* (1989⁴, p.204)からのもので、この書物では(A)は使用不可で、(B)の使用を容認しています。筆者の尋ねたアメリカ人(50代)も(A)のmore ... thanには違和感を抱いていました。

また語法に対する態度がやや規範的傾向のあるBryan A. Garnerも*The Oxford Dictionary of American Usage and Style* (2000, p.265)で、“**Preferable**, inherently a comparative adjective, shouldn't be preceded by more.”と述べ、新聞Baltimore Sunの用例中の“eminently more preferable than”を“much preferable to”と読むように勧めたり、同じく新聞Chicago Sun-Timesの用例中の“more preferable than”を“preferable to”と読むように主張している。一方、Huddleston and Pullumは*The Cambridge Grammar of the English Language* (2002, p.548)で、“The lexical forms (mainly *different*, *superior*, *inferior*, *preferable*) can in some respects also behave like non-comparative.”と述べ、preferableが比較の意味を内包しないで機能する可能性のあることを指摘していますが、時代と共にusageにも変化が見られる一例かもしれません。参考のため、more preferableの用例をBNCから記しておきます。

(12) She hoped for a reply, but dared not hope too much; she imagined that the Hon Mrs. Anderson-Hunt would have had many replies and perhaps ladies with experience would be far more preferable

to a young comparatively inexperienced girl like her.

(13) For these adults, evening courses or open learning would be a more preferable way of studying.

(14) Paige made herself move, because action was infinitely more preferable than thought right then.

15. be covered with [by, in] Oについて

Q. 先日、授業中に、The desk is covered with dust. という英文が出てきたので、米国人の先生に The desk is covered by dust. という英文が日本の英和辞典に出ているが、byを使用してもよろしいですかと質問しました。「byでもかまわないが、withだと全体に覆われている感じがある」と説明されました。しかし、G⁴ではwith/byに関して、どちらを用いても差はないと取れる記述がしてありますし、『ウィズダム英和辞典』（第2版）では、「withは表面が見えないように隠れている状態、byは覆う動作を強調する」とあり、byの用例はありません。さらに、『ウィズダム英和辞典』では、inは「液体などですっかり覆われている」場合に使用されるとありますが、G⁴ではそのような用例はなく、『研究社新英和大辞典』（第6版）にいたっては、be covered with [in] dust [mud] の用例が出ています。一般的な使い分けはどのようになっているのでしょうか。

(米国サンアントニオ市 Y. K.)

Ans. このご質問のwithとbyの違いについては、過去において、すでにQ.B.でも取り上げられていますので、その概要をここに述べることにします。“be covered with [by]”に関しては、「byが受動態と結びつくときは、たとえその後に来るものが「無生物」であっても、それは動作の直接の主体として働いていると感じられる場合であり、これに対しwithが受動態と結びつくときは、たとえその後に来るものが「人」であっても、それを手段・道具・材料あるいは原因と見ている場合である」（『英語語法大辞典』, p.972）と考えられます。見方を変えて、「covered に形容詞的な色彩が濃厚な場合には、withが用いられる（ことが多い—筆者注—）のに対して、coveredに対して動詞的な性格が強く、あるものが直接

その動作を引き起こす主体になっている場合、あるいは、そう感じられる場合には、byが用いられる」（前掲書, p.972）。なお、F. T. Wood, *English Prepositional Idioms*, p.179) にも同趣旨の記述があります。

前置詞inが続く用例については、The hills are covered in snow. (Michael Swan, *Practical English Usage*, p.382) / The players were soon covered in mud. (OALD⁷, s.v. cover) / His face was covered in blood. (OALD⁷, s.v. covered) などが見られますが、OALD⁷ cover 3 の語義にも“put or spread a layer of liquid, dust, etc. on sb/sth”とありますように、液体に覆われている場合にも使用されることが分かります。

“be covered with [by, in]”に関して、前置詞の違いによる語法については「‘S be covered with [by] O’ではSの表面が隠されていることに重点があるのに対し、‘S be covered in O’ではOに重点があって、Sの表面がOであることを強調する」（『英語基本動詞辞典』, p.328; 『英語前置詞活用辞典』, p.262）と考えてよいでしょう。次の例でもinの場合、inが持つその基本的意味の「包含」から、あるもの（の中）にすっぽり包み込まれている感じが暗示されていると思います。

(1) His face was covered with dust. 彼の顔の表面がほこりで覆われていた。

(2) His face was covered in dust. 彼の顔の表面がほこりでいっぱいだった。

「withではおおわれている表面が隠されていることそのものに重点があり、inではおおわれている表面の状態に視点が置かれている」（小西友七『シノニムの語法』, p.196）わけです。結果的には同じでも、視点の置き方が違っていると考えられます。

以上、この語法について、概要の要点のみ記しました。

最後に、inを使用した用例を追加しておきますので、参考にしてください。(5) はinもwithも可ということで紹介されています。

(3) The backs of his huge hands were covered in thick black hair. (Webster³, 2002)

(4) The barn floor was covered in straw. (NODE, 1998)

(5) The prisoner arrived covered in or with a blanket. (Larousse English Dictionary, 1997)

16. hope for O to do構文について

Q. 『ジーニアス英和辞典 第4版』(G⁴) の見出し語 **hope** ⑩の自動詞用例 I hope for John to come. についてご質問します。これはhopeの自動詞用法として載っていますが、hopeを他動詞、for John to comeを目的語の名詞句と考えては不自然でしょうか。他の英和辞典でもこの用法は自動詞に分類されています。

(名古屋市 M. H.)

Ans. 結論から申しますと、質問者が述べられていることは、want, desire, like, loveなどの動詞に当てはまることであって、hopeには該当しません。同じ希望を意味する動詞でも、wantの場合はhopeと違って、I want [John to go] .あるいは((米略式))ではI want [for John to go] .ということが可能です(M. Celce-Murcia & D. Larsen-Freeman, *The Grammar Book*, (1983, p.427)。

周知のように、hopeは他動詞としては次の(1)、(2)のように、後ろにthat節あるいはto不定詞が続き、「・・・であること[・・・すること]を希望する」の意味で使用されますので、^XI hope John to come. は非文法的になります。

(1) I hope that you feel better soon. (*Heinle's Newbury House Dictionary of American English, 2004*⁴)

(2) She hopes to be a doctor someday. (*Ibid.*)

目的語を直接従えるときはhope Oではなく、hope for Oとして用いられます(『現代英語語法辞典』, p.591)。もちろん、話し言葉では、I hope so./ I hope not.はよく使用されます。

ご質問のI hope for [John to come] .の文は「[NP + to不定詞]の形式のネクサス目的語が前置詞付き動詞の目的語」(安藤貞雄『現代英文法講義』, p.216)になっている例です。このforは自動詞hopeと結合して、hope forで他動詞の働きをしていると考えられますので、受身としても用いられます。

(3) The improvement that had been hoped for never came. (*OALD*⁷)

(4) The hoped-for improvement never came. (*OALD*⁷)

後ろにforを従える動詞については、Michael Swanも *Practical English Usage* (2005³, p.267) で、(5)、(6)の用例と共に、次のように述べています。

“However, verbs which are normally followed by for (eg. ask, hope, wait, look, pay, arrange) can often be used with **for + object + infinitive.**”

(5) Anne asked for the designs to be ready by Friday.

(6) I can't wait for them to finish talking.

また、like, hate, mean, intendなどの動詞は((米略式))ではfor-structureを用いるが、((英))では通例使用されないようです(Michael Swan, *ibid.*, p.267)。

(7) I would like for you to stay as long as you want.

(8) She hates for people to feel sad.

(9) Did you mean for John to mail those letters?

最後に、hopeと同じように、自動詞waitと前置詞forが結合し、後ろにto不定詞が続く形式については、「wait for me to come home」の解説が『英語語法大事典』(pp.706-708)にありますので参考にしてください。

17. open O₁ O₂の構文について

Q. 英字新聞記事に次の文がありました。

I shrugged, opened him a beer and suggested he take a back seat with me. [*The Japan Times*, September 2, 2007, p.19] (下線は質問者)

『ジーニアス英和辞典 第4版』(G⁴) の **open** ⑩ ①は[SVO]の使い方のみ示してあり、用例は「O ~ the door for me. ドアを開けてください《◆(1) ×O ~ me the door.は不可. (2) ...》」が出ています。しかし、上記の新聞記事にある例によりopenはSVO₁O₂の構文にも使えると考えてよろしいでしょうか。

(福島市 M. A.)

Ans. 英字新聞記事からの用例とG⁴の用例とでは直接目的語がbeerとdoorのように異なっている点にも注意が必要だと思います。ちなみに、G³の **open** ⑩ 1を見ますと、「O ~ me a beer. = O ~ a beer for me. 私のためにビール(の缶)を明けてください」の後に、次のような用例と語法説明が続いています。

「O ~ the door for me. ドアを開けてください。 **語法**

(1) 「(ドアを)開ける」の意では ×O ~ me the door.

は不可. (2) ...]

これを見ますと、beerとdoorを用いたそれぞれの文では容認度に差があることがわかります。doorを用いた文については、外国語として英語を教える教師用の文法書Marianne Celce-Murcia & Diane Larsen-Freeman, *The Grammar Book : An ESL/ EFL Teacher's Course* (1983, p.237) に、次のような説明があります。

Those especially who come from languages that allow the indirect object to occur freely next to the verb (e. g., French and Spanish) may produce ungrammatical sentences such as “*John opened me the door” instead of “John opened the door for me.”

また、マンチェスター大学の D. J. Allerton は論文 “Generating indirect objects in English” in *Journal of Linguistics* (1978, March, Number 1 Volume 14, 21-33) の中で、二重目的語構文についてイギリス英語の詳細な調査を踏まえた解説をしていますが、動詞openについてはUncle Jim opened a door for Margaret. の文を認め、? *Uncle Jim opened Margaret a door. は “highly unlikely” としています。さらに、アメリカ英語とはいくつかの点で異なるとしながらも、イギリス英語のインフォーマント・テストの調査結果で、“Could you open me the door?” の文の容認度について25%の数字を示しているのです。この文の容認度はそれほど高くないと考えてよいと思います。

それで、アメリカ人の反応も知りたいと思い、本欄回答者の中邑光男氏にお願いして、3人のインフォーマント（アメリカ人2名、カナダ人1名）に意見を求めていただきました。次の4つの文についてアメリカ英語で受け入れられているかどうかと、容認度の違いについて尋ねてみました。

- (1) Could you open me a beer?
- (2) Could you open me the door?
- (3) Tom opened her a beer.
- (4) Tom opened her the door.

アメリカ人のAさんは(1)、(2)の2文に対して、文法的にはOKだが、社会的には(socially speaking)、very commonではないと思うとし、“Could you open a beer [the door] for me?”の方がcommonであるとしました。また(1)と(2)では(1)の方が(2)よりも

commonであり、聞くことも多いとし、個人的には、(1)の方が(2)よりもacceptableであるように思えるとも述べました。そして(2)はすでにドアの近くに人が立っている場合だから、“Could you open it?”が用いられるだろうし、(2)はアメリカよりもイギリスでよりcommonであるような気がすると付け加えました。(3)、(4)の2文については、両方ともoddに思えるし、現代アメリカ英語では“Tom opened a beer [the door] for her.”のように言うだろうし、容認度に関しては、(3)は“a bit odd”に聞こえるが、acceptableである。一方、(4)は完全にungrammaticalであり、社会的に受け入れられていないと思うと判断しました。

もう一人のアメリカ人のBさんは(1)について、しばしば用いられる“Could you get me a beer?”の代わりにおそらく“Could you open me a beer?”が用いられるかもしれないが、やはりoddに思えるし、“Could you open a beer for me?”を用いるとしました。(2)、(3)、(4)の文については、文法的には必ずしもincorrectではないかもしれないが、自分にとってはunacceptableであると述べました。

カナダ人のCさんは(1)の文はacceptableだが、(2)の文はextremely oddに聞こえると述べ、“Could you open the door for me?”を自分は用いるとしました。(3)、(4)については、(1)、(2)に対してと同じ考えであると述べました。

インフォーマント・チェックの結果も考慮しますと、人によって多少のニュアンスの差は見られるものの、(1)は用いられる可能性が高いが、(2)は(1)に比べて容認度が低くなると考えてよいでしょう。ご質問の英字新聞の用例は(3)に該当しますが、アメリカ人でも認める人と認めない人が存在し、筆者が尋ねたアメリカ人も含めて、たとえacceptableであっても、程度の差はあるもののoddの感覚は残るようです。

学習英和辞典では、疑問文や肯定文での他動詞openの二重目的語構文に関して、beerとdoorを用いた文を比較した場合、それぞれの文の容認度に差が見られることを示しておくとともに、二重目的語構文はoddに思える人もいるので、避けた方が望ましいことを「語法」で説明しておくのとよいのではと考えます。

18. For here or to go?について

Q. 『ジーニアス英和辞典 第4版』(G⁴)の **take out** を見ていましたら、To eat here or to take out? や To eat here or to go? の表現がありました。New Horizon (Book I, p.42) でさえ For here or to go? を載せています。G⁴にもこの表現を載せてよいと思いますが、いかがでしょうか。

(福島市 M. A.)

Ans. ご指摘の For here or to go? の表現は、G³の **here** 例1の最後の用例にありましたが、G⁴ではそれが削除された結果、なくなりました。もっとも、G⁴の **here** 例2には用例として「Is that for ~ or to go? (→to GO (go¹ 動成句))」がありますので参考にはなります。

さて、G⁴の成句 **take out** (7) にはご質問にありますように、「((米)) <食物> を (店で食わずに) 持ち帰る ((英)) take away //▼ To eat here or to ~ out? ここで召し上がりますか、それともお持ち帰りですか◆◆ To eat here or to go? と言うことが多い」とあります。

またG⁴のgo成句 **to go**の(2)に「((米略式)) <飲食物が> 持ち帰りの ((英)) to take away, ((米)) to take out) [筆者により訂正] //Is this to eat here, or to go? = Is this for here or to go? ここで召し上がりますか、お持ち帰りですか。」と用例が載せられています。この最後の用例からIs thisが省略されると、For here or to go?が現れますので、Is this をカッコで囲み、(Is this) としておけば、誤解もなかったのではと思われます。to goはもちろんto go out of the shop [store] の意味です。**take out**の語法注記の後に、相互参照(→ HERE 例2, to GO (go¹ 動成句) も入れておくにより親切であったでしょう。この表現は時にはforも省略されて、Here or to go? (cf. 『ロイヤル英文法』, 改訂新版, p.595) とも言われますし、thisの代わりにitを用いて、Is it for here or to take away? ということも可能です(cf. Cambridge Grammar of English, 2006, p.96)。

おわりに

前項に引き続き、『英語教育』(大修館書店)誌の

Question Box欄での質問とそれに対する回答の1部を紙面の許す限り提示しました。これ以降につきましては、上記の雑誌をさらに参照してください。ご参考になれば、幸いです。